

はじめに

ご承知のとおり英国では、1986年に初めてBSE（牛海綿状脳症）が確認されて以来、約18万頭を超える牛がBSEを発症しています。

英国政府は、このようなBSEの状況について、農漁業食糧省（現、環境・食料・農村地域省）、保健省の枠外にフィリップ卿を委員長とする委員会を設け、調査を実施し、2000年10月に4000ページに及ぶ膨大な報告書（全16巻）を公表しました。この報告書は、BSEの発生経過、対策及びその妥当性等広い範囲を調査・分析し、極めて詳細に報告しています。

2001年9月には、残念ながら日本においてもBSEが確認され、国内の牛肉消費は激減し、牛肉価格も急落しました。幸いにして、関係各方面の多大な尽力により、日本国内の牛肉消費もほぼ回復しております。

しかしながら、日本国内においては、依然としてBSEに対する不安、誤解がまだまだ認められ、一刻も早く誤解を解く必要があります。

当事業団では、国内のBSE対策に資するために、特に参考となると思われる第1巻「調査結果と結論」、第2巻「科学」、第14巻「人及び家畜の衛生に関する責務」（作業中）を翻訳しております。

この翻訳はあくまでの仮訳であり、まだまだ不適切なところがあると思われませんが、国内のBSE対策の参考に資するため、取り急ぎ公表するものです。

ご高覧の皆様におかれましては、内容について疑問点・修正すべき点等お気づきの点がございましたら、以下にご連絡ください。

なお、この報告書の英文原本はインターネット（<http://www.bse.org.uk/>）により閲覧可能です。

農畜産業振興事業団

企画情報部

tel 03-3583-8562

Fax 03-3584-1246

E-mail: lin@alicml.lin.go.jp